



# 北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会（第8回） に社会実装関係者として参加



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕 青山学院大学教授）は、令和8年2月26日（木）に、北陸総合通信局の会議室及びオンラインによるハイブリッド方式で開催された、「第8回北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」に参加しました。

この協議会は、北陸地域における「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、5G等の通信基盤整備に資するため、地方公共団体、通信事業者等との間において、地域におけるデジタル実装と通信基盤整備のマッチング等の推進を目的としており、G空間部会は同協議会の社会実装関係者として参画しており、オンライン参加を含め13名が出席しました。

第8回会合では、令和7年12月に「地方創生に関する総合戦略」が閣議決定されたことに伴い、本協議会の名称が「北陸デジタルインフラ整備・活用推進協議会」に変更されました。

また、ICTを活用した地域課題解決の取組紹介として、①若狭町観光まちづくり課 主査 森下敏行氏から、地域BWAを活用したスマートポールによる子どもの見守りシステムについて、若狭町スマートエリア構想策定会議で議論を重ね整備し、移住・定住を促進している事例、②朝日町次世代パブリックマネジメントアドバイザーを務める（株）博報堂 富山洋平氏から、朝日町と博報堂が官民で共創し、地域が元来もっている人の気持ち「お互い様」から生まれた公共ライドシェアサービス「ノッカル」や「やりたい・おもしろい」といった生活者価値を生み出すマイナンバーカードを活用した公共サービスパス「LoCoPi」の事例を交えながら、「地域の文化力×テクノロジー」による持続可能なまちづくりが紹介されました。

続いて、NTTドコモビジネス（株）イノベーションセンター IOWN推進室 エバンジェリスト 林雅之氏から、AI時代の新たなデジタルインフラ整備として期待される、光関連技術を活用した次世代情報通信基盤「IOWN」の最新動向について、ユースケースや社会実装の事例、今後の展開を交えての講演がありました。

当部会では、引き続き、社会実装関係者として協議会に参画していきます。

## 【議事】

- 1 開催要綱の改訂について
- 2 5G等のインフラ整備の地域ニーズと事業者とのマッチング案件等について
- 3 ICTを活用した地域課題解決の取組紹介
  - (1) 福井県若狭町  
「若狭町スマートエリア開発事業  
～地域BWAを活用して地域の安心安全を確保～」
  - (2) 富山県朝日町  
「官民地域共創によるこれからの公共サービスの実現  
～一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために～」
- 4 特別講演 AI時代の新たなデジタルインフラ整備の推進  
「IOWN最新動向」
- 5 ICT利活用施策紹介
  - (1) 総務省の支援施策 (2) 農林水産省 スマート農業推進施策



正面 大藪副部会長（左） 片山北陸総合通信局長（右）  
飯島部会長、部会員はオンラインで参加

若狭町のキーホルダー型の  
子ども見守り端末について  
質問する大藪副部会長

